



命の尊さ、生きることの素晴らしさ、 家庭の大切さを学ぶ～赤ちゃんが先生～

山辺町立山辺中学校

山辺中学校では、学校支援ボランティア、職業体験「わっくWORKやまのべ」など、町と連携をしながら地域との関わりを深めていく活動が盛んに行われています。町、地域、学校が協力しあうことで、生徒達は人間性や社会性さらには自己有用感を育てていきます。

その活動中のひとつに、山辺町の小・中学校で行っている「赤ちゃんが先生」があります。山辺中学校では、家庭科の授業にあわせ、町、地域の乳幼児と保護者、ボランティアと連携し、命の大切さを学ぶ機会を提供しています。

家庭科の新指導要領に「幼児との触れ合いや家族・家庭に関する実践的・体験的な学習活動を通して、幼児に関心をもたせるとともに、自分の成長や家族・家庭、幼児の発達と生活について関心と理解を深め、家族や幼児に主体的にかかわることができるようにする。」とあります。実際、生徒たちは、赤ちゃんと触れ合うことで、初めは不安だった気持ちも授業の最後には心と心が通じ合い、愛情が湧いてきたり、母親の偉大さに改めて気づかされたり、さまざまな良い面が見られました。

赤ちゃんが先生

事前学習

赤ちゃんと触れ合う前に、赤ちゃんに関わることを学習します。妊婦体験エプロンを着用してお母さんの大変さを学んだり、赤ちゃん人形を使って抱っこ練習をしたりします。また、赤ちゃんの発達や、赤ちゃんが泣く事の意味などを学びながら赤ちゃんとの触れ合いに備えます。

赤ちゃんとの交流

まずは、自己紹介を行い、事前学習で出された疑問などを生徒主体で解決、理解しながら進めていきます。その後、赤ちゃんと遊んだり、抱っこをしたり、おんぶをしたりと時間のある限りたくさん触れ合います。中には、オムツ替えやミルクあげに挑戦する生徒もいます。また、赤ちゃんの母親と会話をすることで、命の大切さや重さ、育児の大変さなどを実感します。



生徒の感想より

ほくは、オムツ交換を体験させていただき、簡単にできると思っていたのですが、赤ちゃんがいろいろなところに動いてとても大変でした。子育ての大変さを知ることができました。

お母さんは、成長してハイハイができるようになることを本当に楽しみにしていました。「お母さんになるっていいなあ!」と思いました。貴重な体験ができて楽しかったです。

事後学習

これまでの学習を振り返り、わかったこと、感じたこと、不思議に思ったことなどをまとめます。さらに、今回の学習で新しく出てきた疑問点やわからないことを調べ、深めていきます。最後に、感謝の気持ちを込めて参加してくれた赤ちゃんへお礼の手紙を書きます。

このように、同じ地域に住んでいるいろんな方々と交流することで、命の大切さ、生きることの素晴らしさ、家庭の大切さに気付いていきます。

そして、生徒が体験、学習したことを日常の生活に活かしていく中で、家庭や地域と深く関わっていることを実感し、自分が社会に貢献できる存在であることを自覚していきます。